

優秀賞

お魚のいのち

鹿児島県 鹿児島市立春山小学校二年 川邊 鼓太郎

「つれたつれた。こ太ろうつかまえて。」

はじめてのつりぼりでやっと魚のマスがつれました。ぼくは、ビクビクしながら魚の体をつかみましたが、ぬるっとすべってじめんにおちてしまいました。気もちわるいな、と思いながらいそいでバケツに入れました。バケツの中の魚は、ひっくりかえってエラをうごかしながら、ピチピチッとはねて元気いっぱいです。つりたての魚をやって食べるために今どは、さばくのちょうせんです。

「えらの下にあるあなにはさみを入れて切つてね。」
スタッフのおじさんが教えてくれました。そのとき魚はもううごかなかったけど、さっきまで生きていたのにはさみで切るのがこわくて、
「ごめんね。」

と言いながら、そおとはさみをあなに入れました。「もっとつよくはさみを入れてごらん。」
「ああ、かわいそうに。」

ちょうせんです。まず、三まいおろしにして、みぶ分をおさしみように切ります。ほねやさしみにできないうぶ分は、みそしるのだしにつかいました。じ分で切ったおさしみはとてもおいしかったけど、みそしるがいつもとちがってとくべつなあじがしました。ぼくは、

「今日のみそしるはなんだかこころがおちつくあじだね。」

と言いました。

さっきまでイライラしていたおかあさんが、
「ぶっ。」

とわらいました。みそしるがにが手な妹が、しるまでのみほしてとくいがおでおさらを見せました。

ぼくは、魚のいのちのパワーとぼくのおかげかな、と思いました。

「お魚さん、大せつないのちをありがとう。これからもいのちをむだにしないで大じに食べるからね。ごちそうさまでした。」

ぼくが言うと、おとうさんがいっしょにはさみをもって手つだつてくれました。おなかをひらいたらつぎは内ぞうをとり出します。おなかの中に手を入れると、内ぞうといっしょに赤いちがたくさん出てびっくりしました。さいごに、しおをまぶしてくしにさしたら、あみの上でやきました。

「いただきます。」

やきたての魚は、やわらかくてしおのあじがしっかりしていて、とてもおいしかったです。

「お魚さんのいのちをいただいているんだよ。大じに食べようね。」

おかあさんが言いました。ぼくはいつもは食べない魚のかわやほねのまわりもきれいに食べました。かえりにスーパーによって、夕はんも魚のあじになりました。

「こ太ろう、またさばいてみる？」

おとうさんに言われて、今どはあじのおさしみに

